



緑の地球新聞

第160号

2023年4月5日発行：公益財団法人 緑の地球防衛基金

いま名もない砂漠がふえている 私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館203
☎ 03 (3297) 5505 Fax 03 (3297) 5507
URL: <https://green-earth-japan.net/>
e-mail: defense@green.email.ne.jp
郵便振替口座 00110-9-161182 定価 ¥150

着実に進捗している植林事業

ーベトナム・ラオカイ省植林事業2022年活動報告ー

当基金が、2020年4月にベトナム政府と覚書を締結した「ベトナム・ラオカイ省環境保護植林事業」は、同年11月に3万本の植林を行い、現在は、補植や除草など、森林の育成管理が進められています。

本件事業に関して、ベトナム政府から、2022年活動報告が送付されましたので紹介します。馬尾松の苗木が順調に生育する一方、カントンアブラギリの活着率の向上に取り組み様子などが記されています。

1. 植林場所の気温と降雨量

植林地のあるベトナム北部は温帯性（亜熱帯）気候に分類されます。しかし、植林場所は、ベトナム最北部の山間地帯にあるため、2022年の平均気温は、約19℃に止まり、特に冬には、地温が0℃以下となり、植物が枯れる危険がある霧氷も生じました。また、年間降水量も約400ミリメートルに止まりました。苗木の成長には厳しい気候条件ですが、植樹した馬尾松（別名タイワンアカマツ）及びカントンアブラギリは原産種ですので、現地の気候条件にも適応し成長しています。

2. 苗木の生育状況

①馬尾松（タイワンアカマツ）の苗木
2020年8～9月に2万7,000本植栽された馬尾松の苗木は、順調に成長しています。2022年2月現在、平均樹高は約1.3m



(写真1) 2020年に2万7,000本植林した馬尾松。生育は良好で、樹高平均が1.3m～1.6mに達し、2mを超える木もあります。

1.6mに達し、2mを超える木もあります。(写真1)

植林した翌2021年には、枯れた苗木等に対応して3,000本の苗木が補植されました。こちらも順調に成長しており、2022年2月現在、平均樹高は50cm～70cmに達しています。活着率も高く、85%を超えており、植林の技術設計上、追加して補植する必要がないため、



(写真2) 2021年に3,000本補植した馬尾松。平均樹高は50cm～70cmに達しています。

2022年には更なる補植は行われませんでした。(写真2)

②カントンアブラギリの種子

カントンアブラギリは、2020年10～11月に、森林区画の境界線に沿って3,000本分が直播されました。種子から育てていることもあり、発芽したのは翌2021年1月頃で、その後も成長が遅く、乾燥や雨不足などの現地の気候条件にも左右され、順応に時間がかかっている状況です。ベトナム側では、2021年と2022年に何度もカントンアブラギリを播種しましたが、活着率は50%にとどまっています。そのため、2023年4月と5月に、補植本数は未定ですが、カントンアブラギリをさらに追加で植える予定であると、ベトナム側から報告がありました。

なお、2020年に直播され



(写真4) 2022年に補植したカントンアブラギリ。樹高は平均して約20cm～40cmです。



(写真3) 2020年に播種したカントンアブラギリ。樹高は平均して約60cm～1mで、1.5mに達する木もあります。

たカントンアブラギリの樹高は、2022年2月現在、平均で60cm～1mとなっており、1.5mに達する木もあるとのこと。 (写真3)

また、2021年に補植されたものが平均で40cm～60cm、2022年に補植されたものが20cm～40cmとなっており、緩やかではありますが、着実に成長していることが分かります。 (写真4)

3. 2022年の除草の状況

2022年3月と9月の2回、除草と発根を行いました。苗木の入手

れにあたっては、周囲の植物の伐採、根の栽培と雑草の除去、枯れ木の除去を行いました。

除草は、30～40人がナイフやツルハシなどの農具を持って作業します。全員が同時に周囲の雑草やブドウの木を取り除き、苗木が光合成と発育に最適な状態になるように作業しました。2023年には、2回の下刈り（1回目は3～4月、2回目は8～9月）を予定しています。

4. 2022年植林活動にあたって苦労したこと

今般の植林地は急峻な地形であり、多くのつる植物や低木が繁茂しているため、植林のメンテナンスを行う住民にとって困難な状況であったと報告されています。 (写真5)

なお、2022年の円相場の変動（円安が激しい）のため、当基金からの助成金が目減りして、植林活動を行う上で困難があったとも報告されました。（円安がこういう形で影響を与えていることを改めて感じた次第です。）

5. 本件事業に対するベトナム側評価、当基金への要望

ベトナム政府側からは、

本件植林事業における植林と森林管理の作業は上手く実施されており、年間計画を着実に遂行していると報告されています。



(写真5) 植林地周辺の風景。急峻な地形で、多くのつる植物や低木が繁茂し、植林及びメンテナンスの実施に住民は大変苦労しています。

「地球にやさしいカード」2023年度の活動予定

「地球にやさしいカード」からの寄付金を原資とする当基金の助成事業（2023年度は13団体に助成）に関して、各助成団体の2023年度の活動予定を紹介いたします。

この制度は、「地球にやさしいカード」会員によるカードショッピング額の0.5%に相当する金額が、SMB Cファイナンスサービス株式会社から「緑の地球防衛基金」に寄付され、当基金を通じて、国内外で様々な環境保全活動を行っているNPOなど各種団体に助成されるものです。ちなみに2022年度の助成金実績は1,004万余円でした。

告されています。

また、本件の事業実施が、①地域の環境、水資源を保護し温室効果と気候変動を最小限に抑える効果があること、②地元世帯が植林及び保全作業に参加することで収入の増加、追加の雇用を生み出し、社会経済発展に貢献することなど高く評価しています。

しかし、15ヘクタールの植林面積では、必要な環境目標を推進することが困難であるとして、ベトナム政府側からは、長期的な協力関係を構築し、植林面積を拡大することに強い期待が寄せられています。

助成団体の

（地球温暖化を抑えるカード）
認定NPO法人 FoE Japan

日本国内でも気候危機の影響が拡大しています。危機を食い止めるためには、社会が一丸となって対策を強化していく必要があります。

2023年度も、気候変動対策に関する国際的な議論をウォッチ・分析し、日本政府や企業、自治体に対して気候変動対策の強化を求める政策提言活動等を行っていきます。また、一人一人が意識や行動を変え、持続可能な社会を作る仲間となるような情報発信やワークショップな

どの開催を予定しています。

**(熱帯林を守り育てるカード)
NPO法人熱帯森林保護団体**

地球の肺であるアマゾンの森が、消滅の危機に晒されています。

先住民の若者が組織した「消防団事業」は8年目に入り、火災発生時の迅速な消火活動により大火にならずに鎮火しています。対象地域1万4,760kmの森は、命がけで消火、防火活動を実施している消防士たちによって守られています。この成果をブラジル環境省(IBAMA)は高く評価し、消防士10名が正式にIBAMAメンバーになり、消防士志願者が増えました。

**(尾瀬の自然を守るカード)
NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク**

尾瀬は世界に誇れる自然公園であり、すべてが特別地域、特別天然記念物です。過去には、多くの人が訪れ環境破壊に繋がった時代もありました。その後環境意識は高まりましたが、環境破壊の新たな課題として、外来植物の侵入、シカの食害、観光客用の宿泊施設建設や尾瀬沼周辺の森林伐採などの問題が浮上しています。

2023年度は、侵入外来植物・野鳥・水質などの調査およびバス添乗解説を予定しています。また保護活動の後継者育成研修「尾瀬インタープリター養成講座」を行います。

**(立山連峰の自然を守るカード)
NPO法人立山自然保護ネットワーク**

2023年度も、富山県ボランティア・NPO大会などで自然保護に関する啓発を行い、活動の裾野が広がるように努めます。

室内例会のほか県内各地で自然観察会を実施し、38年目のブナ活力度調査や16年目となる呉羽丘陵でのモニタリングサイト1000里地調査も継続します。

外来植物については山地帯・高山帯で種子の散布源となっている地点を中心に、オオバコやススキ、セイヨウタンポポなどを重点的に除去するとともに分布状況の調査を行います。

**(白保のサンゴを守るカード)
NPO法人 夏花**

石垣島の白保海岸は北半球最大規模のアオサンゴ群落があり、海中公園にも指定されている西表石垣国立公園に位置します。

2023年度の活動として、白保海岸でのサンゴ礁の調査、赤土堆積量調査、海に流出する赤土の防止を目的としたグリーンベルト植栽活動を引き続き実施します。後継者育成と環境学習に関しては、白保村では近年、移住者が増加していることから、若者だけではなく一般の方にも興味や理解を得られるよう啓発活動に力を入れて取り組む予定です。

**(ウミガメを守るカード)
NPO法人サンクチュアリーエヌピーオー**

遠州灘海岸で絶滅危惧種のアカウミガメの保護調査を36年間行っています。浜松市指定文化財で静岡県希少野生動物保護指定種です。

しかし、現在、県と市は、繁殖地に隣接する浜松市西区篠原地区にドーム球場の建設計画を進めています。建設されると、球場施設や周辺施設の夜間照明が子ガメを陸に誘導し、海に帰れなくなることが懸念されます。野球場の代替地はありますが、ウミガメの産卵地の代替地はありません。希少生物を守るため、建設計画の見直しを働き掛けていきます。

**(トンボの保護区を守るカード)
NPO法人桶ヶ谷沼を考える会**

日本一のトンボ生息地「桶ヶ谷沼」の環境を守る、特に絶滅危惧種ベッコウトンボの種の保全に力を注いでいます。2021年度の調査では67頭に激減しましたが、2022年は380頭に回復しました。しかし、種の保全の危機的状態は続いています。このため行政の許可を得て、採卵・ヤゴの生育ゾーンを設定し、網掛け・餌やりなどを始めました。

今年度は、ベッコウトンボの飼育・保全保護活動を継続実施します。沼本体からの自然出現を期待して、湿地復元計画を新たに実施します。

**(ゾウを守るカード)
認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金**

絶滅のおそれが高まるアフリカのマルミミゾウとサバンナゾウ。象牙目的の密猟は大きな脅威です。

未だオープンに象牙を販売している日本は、密猟と象牙取引に無関係とは言えません。そこで、日本で売られている象牙製品の由来と、日本から象牙が違法に輸出されている事実に関する意見書を準備し、11月にジュネーブで開催されるワシントン条約会議に参加します。

また、象牙取引を規制する条例の検討を有識者会議から提言された東京都に、その実行を求めていきます。

**(トンボの保護区を守るカード)
上総自然学校**

2023年度も、休耕田を再生して稲作を行いながら、トンボやカエルなどがたくさん住めるように水路や湿地、周辺の森林を整備します。

アカガエルが産卵してくると、狩りのために猛禽類がやってきます。フクロウの巣箱を増やしたので、楽しみです。色々な生き物たくさん田んぼや水路で、観察会や田植えなどのイベントを行います。横井戸を復活させて、森から水が出てくる様子も説明できるようにしました。研究目的のフィールド利用も増え、DNAの調査も始めています。

(地球温暖化を抑えるカード)
虹別コロカマイの会

北海道の各地に生息していた国指定天然記念物のシマフクロウは、開発等により生息数が激減しました。現在は一部の地域にのみ生息し、165羽程度が確認されています。虹別コロカマイの会は、シマフクロウが生存しやすい環境をつくるため、1994年から「シマフクロウの森づくり百年事業植樹祭」を実施しています。2023年は5月21日に第30回植樹祭を計画しています。昨年は、虹別コロカマイの会が設置・管理している巣箱から、4羽のシマフクロウが誕生しました。

(地球温暖化を抑えるカード)
真庭遺産研究会

岡山県真庭市は、3万2,823haもの面積で生息地指定を受けている全国屈指のオオサンショウウオの生息地です。しかし、生息地の河川環境は大きく変化し、繁殖域の縮小や、個体数の減少が深刻です。

真庭遺産研究会は、2023年度もオオサンショウウオの保護活動として、今なお良好な生息環境を保つ下和川水系を中心に生息個体群の調査と合わせて、オオサンショウウオの棲みつづける川づくりを進め、河畔林の保全と活用など、美しい清流の再生に取り組みます。

(地球温暖化を抑えるカード)
NPO法人熱帯林行動ネットワーク

熱帯林行動ネットワークでは、過去3年間にわたり、インドネシアのボルネオ島東部でオランウータン保護団体であるCOP（オランウータン保護センター）と連携して、植樹活動を実施してきました。

2023年度は、これまでに植樹した地域のモニタリングや管理・修復作業を行います。また、オランウータン保護活動の一環として、保護林の境界周辺における野生のオランウータンと住民との衝突を防ぐため、緩衝地域を設けることを目的とした植樹を実施する予定です。

(地球温暖化を抑えるカード)
NPO法人NPOクワガタ探検隊

NPOクワガタ探検隊は、自然とのふれあい原体験を通して『未来の森の守り人』を育成する活動を、29年間持続してきました。

今年度は、①絶滅危惧種オオクワガタを増殖して元の里山に帰す「里山飼育」、②箕面国定公園内での「樹液苗」の植樹活動、③新創作絵本『ニジロくんの旅日記』の小・中学校への寄贈・活用、④プラスチックゴミ除去を目的とした「猪名川クリーン作戦」の企業との共同実施、⑤地域のイベントでの「自然啓発の紙芝居」上演など、地域貢献を貫き通します。

たくさんの使用済み切手など
ありがとうございました

使用済み切手等売上表
(12月16日～3月15日)

未使用テレホンカード	238,100円
未使用/使用済み切手	126,602円
未使用/書き損じハガキ	0円
外国コイン&紙幣	2,960円
合計	367,662円

使用済み切手等協力者

(12月16日～3月15日敬称略)

浅原、市川浩一、伊藤薫、今井謙、慶田紫都子、大手博之、岡幸恵、小畑佳美、甲斐淳子、河合典子、キャンベル有可、京極樹、後藤美紀、佐藤末松大輔、富沢千代、中野寿人、齋島千尋、久永奈緒美、平原里子、藤田山口元子、山本幸枝、匿名

同法人・団体協力者

(12月16日～3月15日敬称略)

あいおいニッセイ同和損害保険(株) アップワード、(株)アルソア慧央グループ、(株)ECC、岩田地崎建設(株) 東京支店、SBテクノロジ(株)、(株)エム・シー・スクエア、大島造園土木(株)、大西金属(株)、柏市国際交流協会、川南ライオンズクラブ、(株)かんこう、木島法律事務所、(社)北広島市社会福祉協議会、共和食品(株)、国際ソプロチミスト大阪・中央、(株)さくら工業所、三光ライオンズクラブ、

寄付協力者

(12月16日～3月15日敬称略)

SMBCFアインサンスサービス(株) 大熊泰江、佐藤将治、ジャパン・カインドネス協会、(株)乗馬クラブクレイン、幅田博樹、東くみ子、森口修、山本和広

三洋テクノマリン(株)、清水建設(株)名古屋支店、(株)シンク・ラボラトリー、新光電気工業(株)、JSA中核会岐阜支部、(株)J.M.札幌サービスセンター、生長の家岩手県教化部白鳩会、積水ハウス不動産中部(株)、損害保険ジャパン(株)カスタマーコミュニケーション企画部・九州事務集中オフィス、太陽誘電モバイルテクノロジ(株)、第一生命ホールディングス(株)、「小さな親切」運動愛媛県本部、「小さな親切」運動岡山県本部、「小さな親切」運動長野県本部、東洋熱工業(株)札幌支店、戸田建設(株)、(公財)鳥取県国際交流財団、中津沖代ライオンズクラブ、ニッパツ・メック(株)、日本郵便(株)市川大洲郵便局、ハンドメイドLUX、パナソニックホームズ労働組合、不二建設(株)、富士通Japan(株)、富士通フロンテック(株)、ブリヂストン労働組合横浜支部、ホープ歯科クリニック、丸全昭和運輸(株)特殊送関西物流センター、マルハニチロ(株)、三井住友信託銀行難波支店(社)箕面市社会福祉協議会、ミヤ通信工業(株)、郵船商事(株)、(株)リブドゥコーポレーション、LIMNOボランティア推進委員会、(株)ロムテック、和興フィルタテクノロジ(株)